

高原野菜で、プランテーション化阻止を！

価格の乱高下に悩まされながらも、こまめに現金収入が得られる高原野菜栽培の魅力は周辺住民に伝わり、新たに2名の事業参加が決まりました。新規参加者のゴム苗木や野菜種子、肥料代等は、事業収益を受益者と折半している CMIP が負担します。事業のゴールは急傾斜地に植えたゴムノキの樹液採取が始まる 6-7 年後です。今後増えると予想される参加者すべてが、プランテーション企業に土地を貸さない選択に対して後悔しないですむように、HANDS も CMIP とともに、モニターを続けます。

始まったばかりの事業ですが、フィタックの 2 回目の収穫結果が出る 2 月末には、事業開始を後押しいただいた助成機関への完了報告準備にかかります。

(日本国際協力公益財団助成)



族総出で人参の収穫、規格外は自家用として栄養改善に役立つ。(11月、スプのアさんの畑で)

代替収入源の支援拡大で環境破壊ストップ

一島の生態系回復事業 2 年目の助成決定一

熱帯の生態系が残るセブ湖に浮かぶティバウ島の環境保全事業は終盤を迎えました。養殖のティラピアはまもなく初出荷を迎えます。自分の畑だけでなく、入会地についても、枯れたらすぐ植え直すなど、PFP スタッフ、サムソンさんの指導で苗木の維持管理の徹底が図られています。資金の関係で、今年対象にならなかった別の地区でも、果樹苗育成、淡水漁業振興、ビーズ細工など、さらなる収入向上に重点を置く事業を企画し申請したところ、続けて助成決定をいただきました。代替収入源確保が環境保全につながる事業を認めていただき感謝です。

(イオン環境公益財団助成)

ゴムノキに未来を託す村ラワンに安全な水を！

事業モニターを通じて、明るいはずの村の未来に影を落とす深刻な水問題を知りました。住民 400 人が頼る沢の湧水は、雨が降ると泥水が流入、子どもの下痢が増えます。簡易水道建設の助成決定が待たれます。



自主財源でヘルス組合の活動は順調

PIHS による 3 地区の 4-12 月収支報告

<ティナガカン・ヘルス組合 TIPHA>

輸送用の水牛購入支援を受けて、ヤシ屋根材共同出荷は9カ月で7,200ペソの純益。11月、インフルエンザが村に蔓延した時は、無料診療を行い、その他、健康に関する研修を5回、収入向上研修を3回実施し、毎週の給食サービスによる栄養指導経費も自前の収益で賄いました。(1ペソは約2円。以下同じ)

<パロンギス・ヘルス組合 BARPHA>

より馬力のあるエンジンに交換して、2回のコメ収穫時に耕耘機はフル稼働。合計15,000ペソを稼ぎ、維持経費を引いた純益で、巡回診療の薬代5,000ペソほか、PIHS 総会時の米一袋、交通費3,500ペソ等を組合で負担。さらに、農閑期の耕耘機は、トレーラーを付けて4,700ペソ稼ぎました。これで、近隣のマノボ民族の村のヘルス組合結成支援を始めました。

<ツヤン地区の収入向上とヘルスの組合 MULAN>

バニグのバッグは地元で人気があり、注文に応じて毎週デザインを更新し、9カ月で365個も生産販売し14,000ペソの収益を上げて、自前の資金でヘルス研修を3回実施しました。バニグ編ができない組合員はムスリム伝統のお菓子を作り、販売するなど、全員が収入向上事業に参加しています。

(WE21 ジャパンみどり支援)

お買い物して、現地生産者の応援を！

研修支援や伝統の家等の施設支援を経て、COWHED は、製品を買うことを通じての支援でほぼ自立できるという組織になりましたが、まだ、資金繰りが厳しい時もあるようです。昨年2件支援要請を受けました。うち、組合員対象のセミナー等で使うパソコンについては、会員の協力を得て支援し、もう1件トレードフェア参加費は製品代前払いで対応しました。

改めて COWHED からの仕入れ記録を調べてみました。今年度は第3四半期を終えて、購入額は前年の半分程度です。日本でのイベントやロコミによる売り上げ減少が響いています。

ビラーンのナバルタビ織も、新しく織り上がったものの写真が届きますが、日本での需要は頭打ちのため、新規購入は見合わせています。ティナラクのように、現地での縫製を勧めたところ、手提げ型バッグ等が地元で売れたという報告を受けました。

ミンダナオの織物との出会いを喜んで下さる方がまだたくさんいると思います。販売の機会ご紹介下さい。